

財団法人石川文化事業財団 平成20年度事業報告書

第1章 法人の概況

1-1. 法人の沿革

- ・昭和16年9月10日、石川武美が図書館設立を目的として「財団法人文化事業報国会」を創設。
- ・昭和22年11月28日、法人名を「財団法人文化事業協会」に改称し、12月1日、駿河台2丁目に女性専用図書館として「お茶の水図書館」を開館。
- ・昭和35年3月、法人名を「財団法人お茶の水図書館」と改称。
- ・昭和40年12月、駿河台1丁目に移転。
- ・昭和53年3月、法人名を「財団法人石川文化事業財団」と改称し、図書館事業部に加えて、文化事業部（昭和57年）、顕彰事業部（昭和62年）、生活文化研究所（平成3年）による4事業を展開。その後、平成13年までに図書館事業を中心とする1事業部に統合。
- ・平成14年11月、創設時の駿河台2丁目に移転。
- ・平成15年10月、「女性・生活・実用」をテーマとする専門図書館として再開館。

1-2. 寄附行為に定める目的（「寄附行為」第3条）

この法人は、一般文化の向上を図り公益に資するを以て目的とする。

1-3. 寄附行為に定める事業内容（「寄附行為」第4条）

- (1) お茶の水図書館の経営
- (2) 学術研究及び文化の向上発展並びに普及に関する施設の経営
- (3) 家庭に必要な諸般の講習並びに講演会開催
- (4) 日本文化の海外紹介及び普及
- (5) その他目的を達成するために必要な事業

【註】(1)(2)に基づく、公開専門図書館としての図書館事業は、平成15年10月より再開した。また、(3)(4)に基づく文化事業として、お茶の水図書館の資料を活用した出版事業及びセミナー等の開催を実施した。

1-4. 所管官庁に関する事項

文部科学省生涯学習政策局社会教育課

1 - 5 . 事業所の所在地

東京都千代田区神田駿河台二丁目 9 番地

第 2 章 事業部及び事務局の活動

2 - 1 . お茶の水図書館の運営

お茶の水図書館は、私立の女性専用公開公共図書館から、専門図書館へ転身を図り、平成 15 年 10 月にリニューアル・オープンした。当館は、「女性・生活・実用」をテーマとする専門図書館部門と、古典籍・古文書部門から成っている。以下、部門別に事業活動の詳細を報告する。

(1) 専門図書館部門

専門図書館部門の蔵書の中核は、近現代の日本の女性雑誌群である。これまで日本の図書館界では、雑誌の資料価値を低く捉えてきた傾向があり、原資料そのものを保存してこなかったという経緯がある。近年、公立公共図書館でも雑誌を収集・保存していく方針が新たに打ち出されるなど、雑誌への評価が高まっている。

当館ではこのような動きに先行して、すでに昭和 50 年代から、とくに女性雑誌の収集、保存に努めてきた。さらに、専門図書館化してからは、近現代の日本の女性雑誌のバック・ナンバーも集中的に収集している。

明治期以降の女性雑誌の発行点数は膨大であり、それらの出版状況の全容はいまだ明らかにされていない。当館は、こうした原資料を所蔵する図書館として注目されてきており、これらの女性雑誌を調査・研究する利用者を、全国各地、海外から迎えている。こうした利用を受け、当部門では、近現代の日本の女性雑誌を所蔵する専門機関として重要な役割を担うべく、さらなる収集・保存・利用提供に力を入れていく方針である。

また、当館は、戦前から現在に至る図書資料も多数所蔵している。約 2 万 7 千冊に及ぶこれらの図書資料群を基盤として、今後さらに、関連テーマの図書資料を収集し、蔵書を充実させていくことに努める。

資料の収集と整理業務

-a. 雑誌の収集と整理

平成 20 年度の新刊雑誌の増加分は、和雑誌 186 タイトル・2,286 冊であった。このうち、購入分は 84 タイトル・1,075 冊、各出版社からの寄贈分は 102 タイトル・1,211 冊であった。洋雑誌は 20 タイトル・261 冊であった（洋雑誌はすべて購入分である）。

当部門では明治期以降の女性雑誌のバック・ナンバーの欠号補充を主な目的として、古書雑誌も集中的に購入しているが、この数は 1 年間で 296 タイトル・2,910 冊にのぼった。このうち新規タイトルは 94 タイトル・673 冊である。これらの選書にあたっては、古書店

発行の目録だけでなく、インターネットを積極的に利用した。

平成 20 年度は、『主婦之友』所蔵状況の調査結果に基づいて、複本購入を開始した。創刊（大正 6 年）から昭和 20 年発行分までを対象とし、全号各 4 冊のバック・ナンバーを完備することを目指している。

また当部門では、女性雑誌の最新動向にも留意しながら、ファッションや化粧などの流行を反映する同時代資料として、新たな雑誌の収集にも努めている。近年の女性雑誌の出版動向として、独自のテーマを設定し、固有の読者層を想定した雑誌が相次いで創刊され、総体として、さまざまな読者層から支持されている点が挙げられる。こうした出版状況を踏まえ、平成 20 年度は新たに 33 タイトルを選書し、273 冊を購入した。

以上により、平成 21 年 3 月末で、当館が所蔵する雑誌の総タイトル数は、1,198 タイトル（和雑誌 1,106 タイトル、洋雑誌 92 タイトル）、総冊数 83,600 冊（和雑誌 66,200 冊、洋雑誌 17,400 冊）となった。

b. 図書の収集と整理業務

当部門では、「女性・生活・実用」をテーマとして、新刊書籍のほかに、実用書や社史等の古書の選書にも力を入れている。

平成 20 年度の受入冊数は 663 冊である。その内訳は、購入分 457 冊、寄贈分 119 冊（主婦の友社からの寄贈 99 冊を含む）旧蔵書から新たに受入れた図書 87 冊であった。

以上の結果、平成 21 年 3 月末日で当館が所蔵する図書の総冊数は 26,818 冊となった。

閲覧業務（雑誌・図書の利用状況）

-a. 入館者および利用概況

平成 20 年度の入館者総数は 913 名（女性 787 名・男性 126 名）であった。男性利用者の数は全体の約 14% である。「女性・生活・実用」のテーマが男性からも研究されていることがわかる。

海外からの研究者の利用も定着している。平成 20 年度は、国別に見ると、アメリカ 4 名、フランス、ウクライナ、韓国、台湾から各 1 名である。いずれも論文執筆を目的に、女性雑誌を調査対象としている。

-b. 雑誌の館内利用

雑誌バック・ナンバーの利用件数は年間で 1,780 件、682 タイトル・7,303 冊であった。利用の多かった雑誌バック・ナンバーの上位 20 タイトルを次ページの表にまとめた。

なお、『主婦之友』（大正 6 年創刊）のバック・ナンバーは、全冊、開架式で利用に供しているため、この表には含まれていないが、利用頻度では最上位である。また、『主婦之友』は、本誌だけでなく、付録の利用も多かった。

表中の『女性自身』『週刊女性』『女性セブン』の 3 誌は、2 年連続して「バック・ナンバー請求冊数ベスト 20」に登場した。女性週刊誌は、一般的には話題性のある記事を最新

号で読む利用が多いが、当館では、時代をとらえる調査対象として、利用者から評価されていることがわかる。

-c. 複写（コピー）利用

コピー件数は 803 件、コピー枚数は 18,481 枚（雑誌 17,850 枚、図書 631 枚）であった。当館のコピー利用の約 8 割が調査・研究を目的とし、その他の約 2 割は、特定記事の検索を目的としている。このうち、調査・研究テーマについては、「 -e.」で後述する。

<平成 20 年度に利用が多かったタイトル（バック・ナンバー請求冊数ベスト 20）>

	タイトル	冊数	創刊年	備考（利用が多かった年代）
1	婦人之友	514	明治 41(1908)	明治 41(創刊)年～昭和 20 年代
2	女性自身	421	昭和 33(1958)	昭和 30～40 年代
3	婦人画報	313	明治 38(1905)	明治 38(創刊)年～昭和 10 年代、昭和 30 年代
4	装苑	312	昭和 21(1946)	昭和 30～40 年代
5	婦人公論	295	大正 5(1916)	大正 5(創刊)年～昭和 30 年代
6	ノンノ	267	昭和 46(1971)	昭和 46(創刊)年～現在
7	婦人倶楽部	255	大正 9(1920)	大正 9(創刊)年～昭和 10 年代
8	アンアン	227	昭和 45(1970)	昭和 45(創刊)年～現在
9	女学世界	192	明治 34(1901)	明治 34(創刊)年～大正末
10	週刊女性	163	昭和 32(1957)	平成 10 年代
11	主婦と生活	162	昭和 21(1946)	昭和 30 年代
12	料理王国	142	平成 6(1994)	平成 15 年～現在 平成 15 年分から所蔵
13	少女の友	128	明治 41(1908)	大正時代、昭和 10 年代
14	ヴィヴィ	115	昭和 58(1983)	平成以降
15	ジェイジェイ	105	昭和 50(1975)	平成以降
16	ベビーエイジ	98	昭和 45(1970)	昭和 50 年代
17	キャンキャン	96	昭和 57(1982)	平成 10 年代
18	モア	92	昭和 52(1977)	平成以降
19	女性セブン	83	昭和 38(1963)	平成 10 年代
20	ヴォーグニッポン	81	平成 11(1999)	平成 11(創刊)年～現在

-d. 図書の館内利用及び館外貸出

年間の館外貸出の登録者は 29 名、登録者の累計は 310 名となった。貸出人数 62 名、貸出冊数は 187 冊であった。

平成 20 年度の図書利用の特徴として、雑誌と併用して調査対象となった点を挙げておく。たとえば、日本と外国の雑誌の比較研究には、出版関連の図書が利用され、風俗の研究には、昭和史や服飾史の図書が利用された。いずれも、調査対象となる雑誌の刊行時期と同時期の図書が利用されている。このような、同時代の雑誌と図書を併用する傾向は、そのほかの調査テーマにおいても見られた。

以上の利用状況を下表にまとめた。

<平成 20 年度 利用状況>

件 名	総 数	利 用 規 程
入 館 者 数	913 名 (女性：787 名) (男性：126 名)	入館料：1 回 300 円 (税込み)
複 写 枚 数	18,481 枚 (モノクロ：16,149 枚) (カラー：2,332 枚)	料金：モノクロ 50 円 (税込み) カラー 120 円 (税込み)
雑誌バック・ ナンバー出納	件 数：1,780 件 冊 数：7,303 冊 タイトル 数：682 タイトル	1 回の出納冊数：12 冊以内 (1 日の回数制限なし)
図書資料貸出	登 録 者 数：29 名 (累計 310 名) 総 数：187 冊 人 数：62 名	登録：無料 期間：5 日間 (継続可) 冊数：5 冊まで

-e. 調査・研究テーマ

平成 19 年度と同様に、複写サービスを受けた利用者の約 8 割が調査・研究を目的としており、このうちの半数以上が「論文執筆」と明記している。

女性雑誌が扱うテーマ・内容そのものが多岐にわたっていることに関連して、利用者の調査・研究テーマも広範囲に及んでいる。

主な調査・研究テーマを、「卒業論文」「修士論文」「博士論文」「海外研究者の論文」「『主婦の友』を対象とした調査・研究」の順で、以下に紹介する。

<卒業論文>

昭和 10 年代の少女雑誌における“少女”/少女雑誌『ひまわり』に見る理想の女性像 / 1990 年代の『ノンノ』の恋愛記事の分析 / 女性週刊誌が報じる政治家のスキャンダル・失言 / タバコ広告・女性の喫煙 / 化粧品広告の日米比較 / 太平洋戦争下の女性の服装 / 着物の現代における表現方法 / オードリー・ヘプバーンのファッション / 女性のスニーカーライフ / 日本女性のアイメイクに対する美意識の変化 / 現代日本女性の目ヂカラ信仰 / 戦時防空体制と銃後の暮らし / 第二次世界大戦中の食の工夫 / 戦後復興期の製菓会社の動向 / 1950 年代のアメリカ中産階級の女性 / 「主婦」のイメージの変遷 / 戦争未亡人 / 身上相談にみる近代家族と主婦の形成 / 育児不安の行方 (身近にある子育て支援の有効性)

<修士論文>

女性誌における“働くこと”の描かれ方 / 戦時下の女性雑誌と横光利一 / 第二次世界大戦後の新聞広告にみる不動産イメージの形成 / 家計と教育 / 外来食の日本文化への受容 /

日本における良妻賢母主義 / 大正期から昭和戦前期の新中間層家庭の育児 / 広島県における軍事後援組織 / 大正期の音楽 / 明治・大正の日本の教育政策

< 博士論文 >

長谷川時雨の銃後ジャーナリズム活動 / もんぺの普及 / “かたづけ”の変遷 家事のマネージメント / 近代日本におけるメディアを利用した女性の学習活動 / 近代家族の一般化とマスメディア 有名人を媒介にして

< 海外研究者の論文 >

Valentine's Day Gift Giving Rituals (アメリカ) / 広告における女性像の変化 (ウクライナ) / 国民服と田中千代 (博士論文・アメリカ) / Japanese visual culture 1910-1950 (博士論文・アメリカ) / 大陸の花嫁 (台湾) / 20 世紀のいけばなの普及と国際化 (アメリカ) / 韓国と日本の女性雑誌の表紙画 (韓国) / 『主婦之友』から見る女性のイメージ (卒業論文・フランス)

< 『主婦之友』を対象とした調査・研究 > (前掲の各論文テーマで記載済みのものは除く)

近代化と軍隊主義 / 大正期中間層の主婦像の分析 / 『主婦之友』にみる現代主婦像 / 戦時上海における文芸誌：吉屋信子の従軍記事 / 印刷文化論 / 戦後の下着等と風俗の関連 / 化粧と女性の社会進出の関わり / 大正期の家庭生活・家庭教育 / 大正～昭和初期のお稽古ごとと受容 / 戦後日本女性の社会進出とファッション / 戦後の子ども部屋の変遷 / “食”の記事を通して主婦の家事観をさぐる / 1930～1945 年の内地・外地 (満洲) 日本人女性の表象 / 中流住宅の平面構成 / 戦後日本の中絶の現実 / 花嫁学校 / 農業技術史

レファレンス (相談・参考) 業務

平成 20 年度も、利用者と積極的なコミュニケーションを図り、レファレンス業務を遂行した。すでに調査テーマを持った研究者から相談・質問を受け、所蔵資料の紹介などを通して回答したことが、雑誌の複写サービスや図書館の館外貸出へと結びついただけでなく、利用者にとっては、新たな資料の利用、調査テーマの広がりや絞り込みにもつながった。

以下では、利用者からの質問内容と合わせて、レファレンス業務などの利用者とのコミュニケーションから明らかになった、主な調査・研究テーマを紹介する。

< 出版・メディア >

グラビアページが多い明治大正期の女性雑誌 / ガールズ雑誌の系譜・ギャル系雑誌の種類 / 雑誌『モード・エ・モード』を創刊した内山基の業績・経歴 / 『愛知女子青年』『女子青年：愛知県版』の関連 / 占領期のファッション系の婦人雑誌 / 中原淳一と女性雑誌 / 女性誌における男女の関係の推移 / ナチュラル系統の雑誌の美容スタイル / 『アンアン』と 1970～1980 年代の時代背景 / 『婦人之友』友の会の生活改善運動

< 服飾文化・ファッション >

最近のファッション・メイクの人気 / ハイヒールの流行の変遷 / 30 代のファッションと婚礼家具のマーケット調査 / 結婚衣裳—再婚時の服装 / ミニスカートの歴史 / 江戸時代を中心とした女性生活着の変遷 / 韓国文化と化粧品の潮流 / 昭和 30 年代以降の化粧・ヘアスタイル

<暮らし・住まい・料理・食文化>

女性の消費行動 / 北大路魯山人の陶器 / 未病について / 食とガンとの関係 / 近代以降の流行食の歴史 / 昭和初期の食生活 / 川越とサツマイモ / 日本における紅茶の受容

<女性・家族>

飯田深雪、栗原はるみ、マーサ・スチュアート（いわゆる「カリスマ主婦」）の研究 / 戦後の女性の動き / 女子教育史 / 近代の家族問題史 / 引揚孤児（占領期の世相として） / 昭和 30 年代の一般人の結婚の様式・出産・育児 / 時代による夫婦生活の変化 / おむつなし育児 / ベビーシッターの歴史

<風俗・時代考証>

昭和 20 年前後の時代風俗 / 昭和 32 年の女性の風俗（映画制作の参考） / 1969、1970 年の女子大生のファッション（映画制作の参考） / 1980 年代の主婦・女性会社員の服装

<人物研究>

平塚らいてう / 茅野雅子 / 東愛子 / 若杉鳥子 / 大谷藤子 / 城夏子 / 幸田文 / 佐伯チズ / 真矢みき / 島村洋二郎 / 黒崎勇

<特定記事の収載雑誌調査>

『婦人公論』掲載の海老名菊執筆「近衛文麿公の蔭に生きて」 / 主婦の友社発行の雑誌に掲載された「手作り野草分解酵素」 / 『新女界』目次中の河井道子執筆「楽しかりし米国の夏」

寄贈資料の受入

平成 20 年度には、当館が所蔵する近現代の日本の女性雑誌を調査・研究し、その成果をまとめた論文の寄贈が、以下のとおり 2 件あった。

- ・研究論文「矛盾した女性像—ナチズムのモード写真と日本の女性雑誌における受容」が翻訳掲載された『イメージ&ジェンダー』8号。
- ・研究論文「遠藤周作の一つの〈舞台〉：上」が掲載された文学批評誌『叙説』-03号。

また、移転・改修を予定している学校法人自由学園資料室から、重複資料の処分に伴い、昭和 8～40 年の『婦人之友』286 冊の寄贈があった。このほかに、濱崎廣氏（フリー・エディター、当館の第 1 回近代出版文化史セミナー講師）から、雑誌 47 冊・図書 22 冊の寄贈を受けた。この中には、当館にとっては新タイトルとなる 9 誌の雑誌が含まれている。

資料保存対策

当館では、「現在と未来の利用を保証する」という使命のもとで、全館的な「利用のための資料保存」対策を実施し、書庫の温湿度管理など、保存環境の整備に努めている。

-a. 中性紙製保存箱の大量導入

従来から酸性紙製保存箱に入れていた女性週刊誌 3 誌（『週刊女性』『女性自身』『女性セブン』）のバック・ナンバー（約 5,000 冊）を収納するため、平成 19 年度に中性紙製保存箱 750 セットの作製を図書館用品メーカーに発注した。これに引き続いて、平成 20 年度には、新刊増加分用の 250 セットの作製を追加注文した。

-b. 女性雑誌を対象とする、劣化した針金の除去と綴じ直し

針金綴じ製本された女性雑誌のバックナンバー(214 タイトル・1,320 冊)を対象として、劣化した針金の除去と綴じ直し作業を専門業者に依頼した。

-c. 図書の修理

裁縫関連の和装図書(明治～昭和戦前の刊行)約 120 冊を対象に、それぞれの劣化・破損状況に見合った適切な修理を施した。

-d. 雑誌の劣化状態の調査

購入した女性雑誌(古書)の劣化・破損状態の調査方法や点検項目を見直したのち、新たに、状態チェック用のデータシートを作成し、引き続き調査した。チェックシートを作成した冊数は 1,107 冊となった。

(2) 古典籍・古文書部門

当館の活動のもう一つの大きな柱となる古典籍・古文書部門では、約 7 万点冊の成篁堂(せいきどう)文庫と、約 660 タイトル(約 2,000 点冊)の竹柏園(ちくはくえん)本の資料群を所蔵している。これらの資料群は、当館の創設時に設立者・石川武美が購入したものである。成篁堂文庫は、ジャーナリスト・言論家であった徳富蘇峰が、明治 30 年代から昭和戦前期にかけて収集した個人コレクションである。一方の竹柏園本は、国文学者の佐佐木信綱が所蔵していた万葉集関連の貴重書である。

整理業務

データベース作成・入力作業を継続し、『新修成篁堂文庫善本書目』未収載の古典籍資料の書誌データ 3,474 件を追加入力した。この作業は平成 20 年 10 月を以て終了し、総計は約 5,900 件となった。また、203 件の閲覧資料データ(累計 1,525 件)、63 件の寄贈資料データ(累計 516 件)を入力した。

当部門では、古典籍・古文書の写真資料(ネガフィルム・ポジフィルム・紙焼き)も管理している。これらの複製資料は、財団内外の出版物へ図版掲載するために作られたものである。平成 20 年度も、写真資料の整理とデータベース化を進め、データ入力の総件数は 689 件となった。

閲覧業務

平成 20 年度の閲覧者数は 105 名、閲覧資料点数は 100 点であった。

-a. 閲覧者数とその内訳

閲覧者数は 105 名であった。その内訳は、以下のとおりである。

- ・教職者：26 名(うち、ニュージーランド 1 名、中国 2 名)
- ・学生：12 名

- ・国公立・私立機関の研究者等：46名（うち、中国2名）
- ・一般研究者：21名

-b. 閲覧資料の点数と主な資料名および目的

はじめに、閲覧資料100点の内訳を記す。

<成篁堂文庫> 84点

古典籍 75点

『新修成篁堂文庫善本書目』収載分 63点

古写本(奈良から江戸)16点 / 古版本(五山版)・江戸初期版本 7点 / 古活字版・近世版本(寛永版ほか) 13点 / 自筆本 15点 / 唐本(宋・元・明版)11点 / 朝鮮本 1点)

『新修成篁堂文庫善本書目』未収載分 12点

近世写本 8点 / 近世版本 4点

古文書 8点

大乘院中世文書 3点

武家文書等 5点

洋書 1点

<竹柏園本> 16点

次に、閲覧資料名と閲覧目的の一部を以下に記す。

<成篁堂文庫>

古典籍

『新修成篁堂文庫善本書目』収載分

【古写本(奈良から江戸)】

- ・『大唐西域記卷十』(1軸、長久元年写): 大唐西域記の本文校訂
- ・『芝園文集・芝園文後集』(5冊、延文3年写): 日本における唐宋文献の研究
- ・『天正十年日記』(1軸、天正10年写)『織田信長公一世(信長記卷四)』(1冊、正保・慶安頃写): 科学研究費補助金基盤研究(『信長記』諸本の史学的研究)のための調査(4名の共同閲覧)

【古版本(五山版)・江戸初期版本】

- ・『(精選)唐宋千家聯珠詩格』(5冊、南北朝頃刊): 中世日本漢学の基礎研究
- ・『聚樂物語』(2冊、寛永17年刊)『聚樂物語』(3冊、寛永頃刊)『聚樂物語』(3冊、寛文頃刊): 瑞泉寺所蔵「豊臣秀吉妻子像」の歴史図像学的研究

【古活字版・近世版本(寛永版ほか)】

- ・『沙石集』(10冊、慶長10年刊)『日本書紀神代卷(上巻)』(1冊、慶長10年刊)『大坂物語(上巻)』(1冊、慶長19年刊)『大坂物語(巻下)』(1冊、元和元年刊): 要法寺版を中心とした古活字版の書誌調査

【自筆本】

- ・『日本考』(1冊、江戸中期写)『懐紙式外』(1冊、江戸中期写)『城南聯句外』(1冊、

江戸中期写)等:新井白石の著作・書の真筆の研究

- ・『廣瀨家書簡』(1軸、江戸中・末期写):大分県先哲叢書(廣瀨淡窓篇)編纂のための調査(2名の共同閲覧)
- ・『雲烟過眼録(續録共)』(2冊、江戸末期写)『一蝶流謫考』(1冊、天保8年写):英一蝶をはじめとする江戸時代における書画情報の研究
- ・『江戸及近郊風景画』(1冊、江戸末期写)『長谷川雪旦画稿』(1帖、江戸末期写):「江戸名所図会」成立過程の研究(北区飛鳥山博物館秋期企画展のための調査)

【唐本(宋版・元版・明版)】

- ・『錦繡萬花谷續集(巻十四至十六)』(1冊、宋刊):『錦繡萬花谷』版本の研究
- ・『禮記集說』(16冊、明刊)『詩經集傳』(6冊、明正統12年刊)『周易』(6冊、明刊)等:明代出版史の研究

【朝鮮本】

- ・『杜律虞註』(1冊、朝鮮明成化7年刊):日本における唐宋文献の調査
- 『新修成簣堂文庫善本書目』未収載分

【近世写本】

- ・『近世女風俗考』(2冊、天保13年写):近世初期風俗画の研究
- ・『朝鮮記』(4冊、寛文3年写):戦国軍記研究

【近世版本】

- ・『身延鑑(身延山根元記)』(1冊、貞享2年刊):『身延鑑』諸版調査
- ・『楠軍物語』(5冊、寛文頃刊):太平記評判書及び関連図書分類目録作成のため

古文書

大乘院中世文書

- ・『院要抄第一』(1軸、応永9年写)『御寺務部』(5軸、元応2年写)『類聚世要抄』(20軸、鎌倉末期写):中世興福寺寺院組織の研究
- ・『類聚世要抄』(20軸、鎌倉末期写):三井寺(園城寺)公胤僧正の事蹟に関する博士論文執筆のための調査
- ・『御寺務部』(5軸、元応2年写)『類聚世要抄』(20軸、鎌倉末期写):研究発表のための資料確認

武家文書等

- ・『吉田梵舜自筆書状』(5通、元和頃写):豊岡社及び日光東照社に関する調査・研究
- ・『大掾忠幹起請文』(1通、室町中期写)『小田氏治起請文』(1通、元龜4年写)等、真壁文書:平成20年度栃木県立文書館研究紀要作成(常陸の戦国大名佐竹氏権力が発給した起請文に関する研究)

洋書

- ・『An English and Chinese Lexicon(字典集成)』(1冊、明治元年刊):英華辞典の系譜研究

< 竹柏園本 >

- ・『萬葉集柘枝切』(1葉、南北朝頃写)『萬葉集伝解脱上人切』(1幅、鎌倉極初期写):万葉集の伝本研究

- ・『萬葉一葉抄』(2冊、元禄9年写): 中世万葉集研究

調査(成篁堂文庫所蔵古典籍目録編纂のための調査)

成篁堂文庫が所蔵する古典籍の目録編纂を目的として、平成20年度も引き続き、柳田征司氏(奈良大学文学部教授、(財)阪本龍門文庫理事、当財団理事)に調査を依頼した。

同文庫では約9,400点の古典籍を所蔵している。このうちの約3割に当たる約2,900点が、すでに『新修成篁堂文庫善本書目』に収載されている。この書目に未収載の約6,500点が調査の対象である。

この約6,500点については、編著者である故川瀬一馬氏が作成した調書が、ほぼできあがっており、これを目録化することを基本方針としている。具体的には、この調書を原本と1点ずつ付き合わせながら点検し、誤読・誤字などの訂正とともに、書名索引作成のために書名の読み方を調べる作業を行なっている。

平成20年度は江戸時代の写本・版本の調査をほぼ終了した。調査資料点数は約3,200点であり、調査開始(平成19年8月)以降の累計は約5,200点(写本1,570点・版本3,050点・寛永整版300点・木活字版280点)となった。

平成20年度から補助職員を1名増員し、計4名の職員が、柳田先生の調査を補助した。また、柳田先生の調査後の訂正データの入力作業を、職員が平成20年6月から開始し、総点数は1,681件となった。

平成21年度は、江戸時代の写本・版本に続いて、「唐本」「朝鮮本」の調査に入り、並行して、目録の分類・配列方法を検討し、結論を出す予定である。

写真掲載・翻刻掲載・放映への協力

古典籍・古文書の写真掲載・翻刻掲載・放映に関する23件の申請を受け、それぞれの出版・展示事業に協力した。その内訳は、写真掲載15件、翻刻掲載7件、放映1件であった。

使用目的は、出版物、論文集、博士論文、展示図録、文書館紀要、県史・市史編纂物への掲載や、博物館展示パネル作製および展示、テレビ歴史番組の制作などであった。

-a. 写真掲載

『足利義昭 織田信長 五か条の条書』(永禄13年写)2件、『西本願寺本萬葉集』(鎌倉末期写)4件のほか、『淺井長政書状(片桐文書)』(元亀4年写)、『長谷川雪旦画稿』(江戸末期写)、『維摩經卷中』(奈良朝写)など、合計15件(小学館、吉川弘文館、PHP研究所、青裳堂書店、北区飛鳥山博物館、栃木県立文書館、長浜市長浜城歴史博物館、栃木県さくら市教育委員会など)

-b. 翻刻掲載(一部引用翻刻)

『禪林無盡藏』(慶長頃写)、『矢開之次第』(室町中期写)、『慈恩會豎問役記(大乘院文書)』(室町中期写)、『類聚世要抄(卷八)(大乘院文書)』(鎌倉末期写)、『西本願寺本萬葉集(卷第二十)』(鎌倉末期写)など、合計7件(岩田書院、愛知県史編さん室、栃木県さくら市教育委員会など)

-c. 放映

河村吾蔵作「徳富蘇峰・静子夫人の胸像」(昭和 17 年制作、成篁堂文庫所蔵) 1 件 (TBS テレビ)

寄贈資料の受入

平成 20 年度中に受領した寄贈資料は 66 点である。このうち、当館が所蔵する古典籍・古文書を調査・研究した成果をまとめた出版物、論文等 (写真・翻刻掲載を含む) の寄贈資料の一部を、以下に記す。

- ・『中世東国武家文書の成立と伝来に関する史科学的研究：陸奥白河結城家文書を中心に (科学研究費補助金 基盤研究 研究成果報告書)』
- ・『平成 19 年度 斑鳩町公民館まつり報告抄』、同公民館
- ・『論集 東国信濃の古代中世史』(「武家の狩猟と矢開の変化」を収載) 岩田書院
- ・『大阪大谷国文 第三十九号』(「『長谷寺験記』と興福寺」を収載) 大阪大谷大学日本語日本文学会
- ・『解釈 3・4 月号：特集 古代』(「お茶の水図書館蔵『萬葉書』について」を収載) 解釈学会
- ・『藝文研究 第 95 号』(「要法寺版をめぐる覚書」を収載) 慶應義塾大学藝文学会
- ・『平城天皇 (人物叢書 新装版 256)』(春名宏昭著) 吉川弘文館
- ・『週刊 新説戦乱の日本史 (11：三方ヶ原の戦い) (12：姉川の戦い)』ほか、小学館
- ・『氏家町史 資料編：古代中世』、栃木県さくら市教育委員会
- ・『名所を愉しむための 7 つのレッスン：江戸名所図会の世界展』、北区飛鳥山博物館

資料保存対策

当館では全館的に「利用のための資料保存」対策を講じているが、当部門における平成 20 年度の具体策は、以下のとおりである。

-a. 貴重書庫の温湿度管理

貴重書庫は外気の影響を受けにくい仕様で造られているが、書庫内の温湿度の実際の変動幅を、1 日・1 週間・1 年単位で継続して調査した。さらに、時間帯や季節により、試験的に空調を稼働させ、温湿度の変動の幅をどれくらい制御できるかを引き続いて調査した。

-b. 中性紙製保存箱の大量導入

成篁堂文庫洋書 2,500 点を対象に中性紙製保存箱の作製を専門業者に依頼した。

-c. 閲覧時の資料の適切な取り扱い

長尺の卷子本や、劣化・破損した資料の閲覧の際には、職員が資料の取り扱いを補助しながら、適切な取り扱いについて閲覧者へ説明した。

(3) 職員研修及び教育

研究会、講演会、見学会への参加

各担当業務の関連テーマに関する知見と技術を習得するため、研究会、講演会に参加し、関連機関・催事を見学した。

<平成 20 年>

- ・ 4 月：文化学園服飾博物館見学会に参加
- ・ 同月：専門図書館協議会（以下「専図協」と略）主催「コンテンツ・マネジメントシステム体験会」に参加
- ・ 同月：国立公文書館特別展「病と医療」見学と同館所蔵古典籍の調査
- ・ 6 月：専図協（関東地区）主催・国立情報学研究所見学会に参加
- ・ 7 月：専図協主催・全国研究集会「第 11 回情報サービス研究会」に参加
- ・ 9 月：印刷博物館「ミリオンセラー誕生へ！」展覧会内覧会に出席
- ・ 10 月：国立国会図書館開館 60 周年記念貴重書展・展示内覧会に出席

<平成 21 年>

- ・ 1 月：専図協主催・セミナー「国立女性教育会館提供のデータベースについて」に参加
- ・ 3 月：専図協主催・「東京都立中央図書館」見学会に参加

専門分野教育

当館には近現代の資料（雑誌・図書）、古典籍・古文書のほか、美術資料や博物館的資料も数多く所蔵している。こうした資料の整理、提供、保存に携わるためには、それぞれの資料に関する、より高度な専門的知識と技術を習得する必要がある。このことから、職員に、学芸員資格取得のための大学教育を受けさせている。

2 - 2 . 文化事業の実施

(1) 第 5 回成篁堂文庫セミナーの開催

澤田次郎氏（尚美学園大学総合政策学部教授）を講師に迎え、平成 21 年 2 月 7 日に、第 5 回成篁堂文庫セミナー（演題：「徳富蘇峰の見たアメリカ」）を開催した。澤田氏の専門は近代日本政治思想史である。同氏は、すでに長期間にわたり、成篁堂文庫の洋書を対象に、徳富蘇峰の読書の跡（書き込み・アンダーライン等）を精査し、蘇峰の思想形成を辿る研究を進めている。今回のセミナーではその成果を発表していただいた。全国から蘇峰研究者ら 18 名が参加し、画期的な催事となった。関連テーマの展示の展覧や質疑応答の時間を設け、参加者の活発な交流を図ることができた。

なお、平成 21 年度の第 6 回セミナーも澤田氏に講師を依頼し、成篁堂文庫の洋書を継続調査した成果を講演していただく予定である。

(2) 「お茶の水図書館設立 60 周年記念講演会」の開催

当館は平成 19 年 12 月に創立 60 周年を迎えた。この記念事業の一環として、平成 20 年 12 月 13 日に、穂村弘氏（歌人）と黒岩比佐子氏（ノンフィクション・ライター）を講師に

招き、記念講演会を開催した。広報を新聞等で行ない、当日は 100 名以上の参加者が集まり、大好評を博した。講演会の構成は以下のとおりである。

- ・第 1 部（講演）：穂村弘氏「短歌の友人 短歌の読み方と詠み方」
- ・第 2 部（講演）：黒岩比佐子氏「食育のススメ 現代に通じる明治人の知恵」
- ・第 3 部（対談）：「読書の楽しみ」

(3) 「お茶の水図書館設立 60 周年記念講演会記録」の出版

前項(2)の講演会の内容を当財団の記録として留めるだけでなく、参加できなかった方々へも寄贈することを目的として、1冊の書籍(A5判、ソフトカバー、119ページ)にまとめ、出版した。

(4) 「カラ 復刻『主婦之友』昭和期目次 」（2分冊）の出版

平成 18 年度に刊行した「大正期総目次」に続いて、「カラー復刻『主婦之友』昭和期目次」を 2 分冊で出版した(B5判、上製本、「 」は昭和 2~10 年分・377 ページ、「 」は昭和 11~20 年・354 ページ)。大正期総目次とともに同書は、当時の家庭生活や社会情勢を知る上での貴重な情報源であり、当館所蔵の『主婦之友』本誌の利用の活性化にもつながるものである。『主婦之友』をはじめとする女性雑誌に関する認識を深めてもらうためにも、今後さらに、全国の図書館や関連機関へ積極的に寄贈する予定である。

(5) 美術資料（原画・挿絵・原稿・写真等）の貸出協力

当館では、雑誌『主婦之友』に掲載された表紙絵原画・挿絵原画等の美術資料を数多く所蔵している。平成 20 年度における美術資料の貸出等の事業は、以下のとおりである。

< NHK 総合テレビ「週刊ニュース」に『主婦之友』を貸出 >

『主婦之友』(大正~平成)本誌 10 点・付録 16 点の計 26 点を日本放送協会に貸出した(平成 20 年 5 月 10 日放映)

< 「小袖 江戸のオートクチュール」展へ岡田三郎助作品「婦人像」を貸出 >

名古屋市博物館(平成 20 年 4 月 26 日~6 月 8 日開催)、サントリー美術館(同年 7 月 26 日~9 月 21 日開催)、大阪市立美術館(平成 21 年 4 月 14 日~5 月 31 日開催)で行なわれる巡回展「小袖 江戸のオートクチュール：初公開 松坂屋京都染織参考館の名品」(主催は前記 3 館のほか、松坂屋京都染織参考館、日本経済新聞社)に、当館が所蔵する岡田三郎助の油彩作品「婦人像」を貸出した(平成 20 年 4 月。返却は 10 月)。また、最終開催館である大阪市立美術館への貸出準備等を行なった(平成 21 年 4 月貸出)

< 弥生美術館へ小林秀恒作品を貸出 >

同美術館主催の「夭折の挿絵画家 小林秀恒」展(平成 21 年 1 月 3 日~3 月 29 日開催)に雑誌『主婦之友』連載小説の挿絵原画 4 タイトル・18 点を貸出した(平成 20 年 12 月)

< 印刷博物館へ『主婦の友』付録を貸出 >

同博物館の企画展「ミリオンセラー誕生へ!—明治・大正の雑誌メディア」(平成 20 年 9 月 20 日~12 月 7 日開催)に『主婦の友』昭和 9 年 1 月号付録「新式の姓名判断(ABC 占い)」を貸出した(平成 20 年 9 月~12 月)

<松山市 坂の上の雲ミュージアムへ「坂の上の雲」挿絵画像データを貸出>

同ミュージアムの企画展「秋山好古」展（平成 21 年 3 月 14 日～平成 22 年 2 月予定）の展示品および広報媒体等に、当館が所蔵する下高原健二画「坂の上の雲」の挿絵画像データ 6 点を貸出した（平成 21 年 2 月）。

2 - 3 . 事務局の活動

(1) 広報活動

ホームページでの広報

当財団は平成 15 年 10 月の図書館リニューアル・オープンに合わせてホームページを開設した。平成 20 年度もこのホームページの情報を更新し、広報活動を積極的に行なった。

財団の設立趣旨、事業概要の説明のほかに、図書館の広報として、専門図書館部門では、利用案内、和洋雑誌所蔵リスト、テーマ別蔵書、資料保存関連リンク集を紹介した。また、古典籍・古文書部門では、利用案内、成簣堂文庫・竹柏園本の概要、冊子体所蔵目録などを紹介した。

当館見学会の実施

平成 20 年度は、以下の機関から申請を受けて、当館の見学会を実施した。専門図書館化を果たした当館の活動内容を、現場レベルで見学したいとの要望が大きかった。図書館学を学び、図書館員を目指す学生が教員とともに見学するケースが多かった。図書館の実際の業務に触れながら、図書館への認識を深めていただける良い機会となった。

<平成 20 年>

- ・ 9 月：宮崎公立大学人文学部国際文化学科講師 1 名・学生 5 名（学生による女性雑誌の調査実習を兼ねる。資料の整理、分類に関する質疑応答）
- ・ 同月：文部科学省生涯学習政策局担当官 2 名（図書館のナレッジ・マネジメント等に関する質疑応答）
- ・ 同月：主婦の友社 3 名、ネットアドバンス 6 名（図書館の概況を説明）
- ・ 11 月：実践女子大学文学部図書館学教授 1 名・同課程の学生 9 名（専門図書館の役割と機能についての質疑応答）

<平成 21 年>

- ・ 2 月：自由学園教授 1 名・学生 7 名・資料室職員 2 名と、東京都現代美術館図書室 5 名の合同見学会（当館の資料保存対策の紹介と質疑応答）

図書館協力

当館から、専門図書館協議会広報委員会の正式委員として職員 2 名が就任した。平成 20 年度は、インターネット版「メールマガジン・SENTOKYO」上で「図書館・出版」に関する新刊案内などの編集作業を行ない、会員に提供した（毎月 2 回）。

「お茶の水図書館の 60 年」を『国立国会図書館月報』で紹介

60年にわたる当館の歴史を編纂した「お茶の水図書館の60年」(当財団編集・発行、平成19年12月刊)が、『国立国会図書館月報』(No.576、平成21年3月発行)の書評コーナー「本屋にない本」で紹介された。「過去を振り返る年史でありながら、明日に目を向けた印象を読み手に与える」と高い評価を受けている。

(2) その他の館外活動

< 情報保存研究会・日本図書館協会共催のシンポジウムにて事例報告 >

資料保存をテーマとするシンポジウム「図書館・アーカイブズにプリザベーション・マネジメントを着地させるには 『調査と計画、そして実行』のケース・スタディ」が、平成20年10月29日に江戸東京博物館で開催された。このシンポジウムにおいて、当館職員が「小規模な図書館の資料保存 これまでの20年、これからの10年」と題する事例を発表した。この催しには300人以上の図書館・文書館関係者が参加した。当館の発表内容は、資料保存の実践的な取り組みの好例として評価を受け、シンポジウム参加者による、その後の当館見学会にもつながった。

< 館外出版物への寄稿 >

監督官庁からの依頼に応え、文部科学省編集「月刊生涯学習」(平成20年9月号)に、『図書館司書の仕事』(社会教育の推進を支える人材シリーズ)という記事を掲載した。当館の紹介をしながら、図書館における司書の役割と業務を提示した。

(3) 管財部門の業務

当財団では、歴史的にも文化的にも貴重な資料を数多く所蔵しているため、当財団ビルの建物・設備等の維持管理には細心の注意を払っている。平成20年度は、移転時に修繕できなかった箇所を整備したほか、年間スケジュールに沿って、エレベータ部品交換、ビル壁面の換気口の修理のほか、点検・メンテナンス作業を実施した。また、古典籍・古文書の閲覧室を整備し、参考図書を充実させるために、9階フロアーに書棚を増設した。

また、所有ビルの劣化状況と修繕状況の調査結果を踏まえ、同社ビル本館前の駐車場の一部修繕工事を実施した。この作業は平成21年度も継続して行なう予定である。

(4) 資産運用委員会の活動

資産運用委員会では、当財団の基本財産並びに運用財産の適正な運用を目的として、検討を続けている。平成20年度は、混迷する国内外の政治・経済状況を見据えながら、動向を見守る1年となった。今後数年のあいだに、良い時期を選び、基本的なポートフォリオを構築し、さらに安定した運用基盤を固めていく方針である。

(5) 公益法人制度改革に伴う申請の準備

平成20年12月に公益法人制度改革法が施行されたことにより、公益法人として新たに申請することが求められている。このため、平成20年度は、新法の考え方や申請手続きへの理解を深めることを目的として、専門家とプロジェクトを組み、1年間、申請に伴う会計的課題を中心に検討を続けてきた。この成果を踏まえ、基本的な問題は解決できると判

断し、公益財団法人への移行に取り組む方向性を持つに至った。

2 - 4 . 役員会等に関する事項

(1) 理事会に関する事項

開催月日	回数	議 事 事 項	会議の結果
H20.6.21	第 150 回	(第 1 号議案)平成 19 年度事業報告承認の件 (第 2 号議案)平成 19 年度財務諸表及び収支 計算書承認の件	可 決 可 決
H21.3.28	第 151 回	(第 1 号議案)平成 20 年度補正予算承認の件 (第 2 号議案)平成 21 年度事業計画承認の件 (第 3 号議案)平成 21 年度収支予算承認の件	可 決 可 決 可 決

(2) 評議員会に関する事項

開催月日	回数	議 事 事 項	会議の結果
H20.6.21	第 127 回	(第 1 号議案)平成 19 年度事業報告承認の件 (第 2 号議案)平成 19 年度財務諸表及び収支 計算書承認の件	可 決 可 決
H21.3.28	第 128 回	(第 1 号議案)平成 20 年度補正予算承認の件 (第 2 号議案)平成 21 年度事業計画承認の件 (第 3 号議案)平成 21 年度収支予算承認の件	可 決 可 決 可 決